

はじめに

本書は、1995年9月16日に鹿児島大学稲盛会館で、鹿児島大学南太平洋海域研究センターが主催した公開シンポジウム「近代日本の『南方関与』」の記録である。このシンポジウムは文部省科学研究費「総合的地域研究」の重点領域研究「南方関与の論理」班（代表者：小島勝）との共催のもとに行われた。

この年、わたしたち日本人は、アジア太平洋戦争が終結して半世紀という大きな節目を迎えた。この時にあたって、日本の南方地域を研究対象とする南太平洋海域研究センターとしても何らかの意義のあるかたちで学問的な貢献をしたいと検討していたところ、幸いにも「南方関与の論理」班の全面的な協力を得て、「南方関与」をテーマとするシンポジウムを開催することができた。本センターの主催するシンポジウムとしてもっともふさわしいテーマとなったと思う。シンポジウムの当日は、折悪しく不順な天候によって進行を妨げられた点があったものの、遠路から来ていただいた報告者の方々の熱意に対して、鹿児島の研究者や一般市民の方々が数多く集まって十分に応えることができた。この日の真摯な報告と討論を通じて、わたしたちがこれから南方にかかわっていく上で考えていかなければならないさまざまな問題の所在が出席者のあいだで共有できたことと信じる。

シンポジウムの開催にあたっては、多くの人びとのご協力をいただいた。報告をしていただいた研究班の先生方、討論に参加していただいた研究者・市民の方々、そして、シンポジウムの準備と円滑な開催を助けていただいた本センターの兼務教官の方々に感謝申しあげたい。また、録音テープからの原稿作成には楠本浩子さんの尽力があった。ここに、その多くの人びとの協力の成果が南太平洋海域調査報告シリーズの1冊として実を結ぶこととなり、その編集作業に編者とともに携わったひとりとしてたいへんにうれしく思うものである。

鹿児島大学南太平洋海域研究センター

青 山 亨